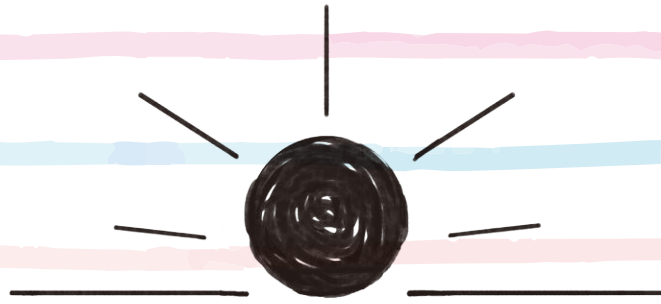


2026年夏号



さん・サン メルマガ

高校・専門学校と福山大学が手をつなぎ、未来を創る

学部学科トピックス等 令和9年度入試日程



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY



福山大学イメージキャラクター
『ふくりん』

経済学部 経済学科

体験と実践から、社会を見る力を身につける

経済学科では、講義で知識を学ぶだけでなく、実際に体験したり、社会で働く人から話を聞いたりしながら、経済や社会について考える力を育てています。経済学と聞くと、難しい理論や数字を思い浮かべる人もいるかもしれませんが、しかし、経済学科の学びは、私たちの身近な生活や将来の進路とも深く関係しています。

山下陽平講師が担当する「スポーツ心理学」では、バスケットボールを用いた授業が行われました。この授業の目的は、バスケットボールの技術を高めることではありません。学生自身の行動をデータとして記録し、「どのような目標なら努力を続けやすいのか」「集中力が落ちたときに人はどのような行動を選ぶのか」を考えることにあります。

授業では、距離を変えて、学生がシュートを行い記録しました。シュートの成功数だけでなく、どの距離を選んだのか、どれだけ投げ続けたのか、うまくいかなかったときに距離を変えたのか、といった行動も分析の対象になります。

そこから見えてくるのは、人それぞれの「行動のクセ」です。成功しやすい距離に戻って立て直す人、同じ距離で挑戦を続ける人、さらに難しい距離に挑戦する人。同じ条件でも、選ぶ行動には違いがあります。この授業で大切にしたのは、努力を「根性」や「才能」だけで片づけないことです。努力を続けるためには、自分に合った目標を立てること、自分がどのような場面で集中しやすいのかを知ることが重要です。スポーツを題材にしながら、学習や将来の仕事にもつながる自己理解の力を育てています。

また、中村和裕准教授が担当する「経済学演習Ⅰ」では、三菱UFJ銀行福山支店の方々を招き、「将来の資産形成」をテーマとした特別講義が行われました。銀行の役割や金融の仕組み、金利、株式・債券、NISA、複利の考え方など、将来の生活にも関わる内容を学びました。

受講した学生からは、資産形成は一度に大きな成果を出すものではなく、「長期・分散・積立」という考え方に見られるように、日々の小さな判断や積み重ねが将来につながることに印象に残ったとの声がありました。学生たちは、金融機関で働く方々の話を通じて、経済の知識が社会や自分の暮らしにどう関わるのかを考える機会となりました。

経済学科の学びに共通しているのは、「身近な経験を出発点に、社会や自分の行動を考える」ことです。スポーツ、金融、地域経済、企業活動、税金や財政など、扱うテーマはさまざまですが、いずれも私たちの生活や将来とつながっています。経済学科では、知識だけでなく、体験と実践を通じて、社会を見る力、自分を理解する力、将来を考える力を身につけていきます。



「スポーツ心理学」の授業の様子



特別講義「将来の資産形成」の様子

Big Jumpで未来を切り拓く

経済学部 国際経済学科

国際経済とキャリア蓄積で世界で働ける力を！

国際経済学科のミッションは、地域で育った若者を世界で活躍できるグローバル人材へ育てることです。特に、海外と繋がりをもつ地元企業や産業で力を発揮できる人材の育成に力を入れています。私たちはこれを、「グローバル」と「ローカル」を組み合わせた「グローカル」人材の育成と考えています。

そのために欠かせないのが外国語力です。しかし、語学は授業を聞いているだけでは身に付きません。実際に使い、挑戦し、失敗しながら学ぶ経験が必要です。そこで国際経済学科では、意欲ある学生が段階的に語学力と国際感覚を身につけられるよう、Big Jumpプログラムを用意しました。初心者からでも安心して参加できる実践型プログラムです。

まず、1年次にIELTSやTOEFL、英検などの外部試験に挑戦する学生には、受験料助成があります。補講や課外プログラム、教員による個別サポートもあり、英語に自信がない学生でも安心して挑戦できます。また、語学力だけでなく、「挑戦する姿勢」を身につけることもこのプログラムの大きな目的です。

さらに、1年次に外部試験を受験した学生は、夏休みや春休みに5週間の海外集中語学研修へ参加できます。英語の場合は、オーストラリアなどの協定校で学び、現地学生や多国籍の留学生と交流します。30万円の助成金も支給されるため、海外経験への第一歩を踏み出しやすい環境が整っています。現地では授業だけでなく、買い物や生活、異文化交流もすべて英語で行うため、「使える英語力」を身につけることができます。

また、海外研修では、単に語学を学ぶだけではなく、日本との文化や価値観の違いを実際に体験することができます。自分の考えを相手に伝える力や、多様な価値観を理解する姿勢を身につけることは、将来社会で活躍するために大きな財産になります。海外経験を通して、自分自身の成長を実感する学生も少なくありません。

そして、ステップアップとして2年次には英語で経済学を学ぶ科目も用意しています。単なる語学学習ではなく、英語を使って専門分野を学ぶことで、国際社会で必要となる実践力を養います。

さらに3年次には、世界中の協定校への留学が可能になります。交換留学期間中、福山大学の授業料84万円のうち半額を福山大学が免除するため、実質負担は42万円となります。さらに最大20万円の留学奨学金も支給されるため、実質合計62万円分のサポートを受けることができます。

このプログラムを修了した学生には修了証が授与されます。これは単なる語学力だけでなく、「海外で挑戦し、学び、乗り越えた経験」を持つ証です。卒業後は、海外と関わる企業や地域産業などで、本当の意味でのグローバル・グローカル人材として活躍することが期待されます。

国際経済学科は、「やる気」を「実力」に変える環境を整えています。ここから皆さんも、大きな一歩を踏み出してみませんか。



ニュージーランド研修における
リンカーン大学での集合写真

地域と企業をつなぐ人材を育成！

経済学部 税務会計学科

“AI時代”こそ即戦力となる資格を！

AIの進歩は目覚ましいものがあり、実際に多くの企業では、単純作業はどんどんAIが担うようになってきています。また、AIの影響によって新卒採用の枠を絞る企業も出てきています。つい最近まで引手数多であった大学生の就職活動にも、これから少しずつ影響が出てくると予測されます。このような状況のなかでも希望する就職を勝ち取るためには、大学生活を送るなかでどのようなことに積極的に取り組んだのかをアピールできる必要があります。部活動や学園祭、アルバイトでリーダーを務める、ボランティア活動に積極的に取り組んだなど、様々な取り組みがアピールできると思います。このように大学生活で積極的に取り組んだことは、学生時代に力をいれたこと・・・ということで略して“ガクチカ”と呼ばれています。この“ガクチカ”は就職活動の際に必ずアピールポイントとしてエントリーシートなどに記載するのですが、何も考えずに学生生活を過ごしてしまうと、就職活動の際に“ガクチカ”がアピールできないということになってしまいます。そして、この“ガクチカ”で最も分かりやすいものが「資格」になります。

税務会計学科では、実践的な経営と会計の知識・技術の修得を目標として、地元企業や税理士の先生方と協力した教育体制を構築しており、現役税理士の先生による日商簿記検定3級や2級習得に向けた講座も2026年度から開講予定としています。文系の学部には所属する学生にとって、日商簿記検定3級、2級の資格は、文系学生の多くが目指す事務職としての仕事へ大きなアピールポイントとなります。会計は、計算過程だけに着目すれば、人間よりAIのほうが正確に計算する能力が高いのは明らかです。しかし、AIに指示を与えるのは人間です。簿記や会計の知識がなければAIに正しい指示を与えることはできません。このような意味でも、企業に広く認知されている日商簿記検定3級、2級を大学生活のなかで取得するという大きな意義があると考えます。

高校生向け経済学・経営学講座開講！

経済学部では、初めての試みとして、2026年7月25日(土)、8月1日(土)、8月8日(土)の3日間に渡り、高校生向けの経済学・経営学の講座を開講しました。税務会計学科からは、ズバリ“お金の数え方”ということで、「会社(企業)のお金って、どうやって数えるの?」ということをやテーマとしました。高校在学中に大学でどのようなことを学ぶのか知りたい、あるいは大学レベルの講義を体感してみたいという方もいらっしゃると思います。可能な限りこのような取り組みを続けていきたいと考えておりますので、次回以降の開講にもご期待ください。

SEMINAR DAY 1-B

暮らしとお金：金融と会計の基礎

ビジネスを数値化する「会計」の力

7/25(土) 16:20～17:00

【タイトル】

今いくらおカネを持っていますか？

—会社でのおカネの数え方—

【講義概要】

お小遣い帳とは違う「会社のおカネ」の数え方を学びます。20年以上の実務経験を持つ講師が、会社を動かすおカネの仕組みを可視化。一見難解な会計の世界を、身近な例えを用いて解き明かし、将来働く上で不可欠な「ビジネスの共通言語」としての理解を深めます。

【講師からのメッセージ】

「楽しい人生を送るためには、おカネへの正しい理解が必要です。一緒に学びましょう！！」

勝田 篤 税務会計学科 講師 / 博士

- ・楽器販売、病院・介護施設での20年以上の実務経験
- ・社会保険労務士(試験合格者)
- ・関西学院大学大学院にて博士号取得
- ・専門：管理会計、ヘルスケア・マネジメント
- ・趣味：ランニング、銭湯、ドラクエ、司馬遼太郎



人間文化学部 人間文化学科

新入生レクリエーションの開催 (5/7)

人間文化学科では、新入生の親睦を深め、大学生活に慣れてもらう取り組みとして、例年1年生向けの教養ゼミでレクリエーションを実施しています。

今年度は5月7日(木)の5時間目に、「NGワード・ゲーム」大会を開催しました。ルールは、参加者がそれぞれNGワードの書かれたカードを自分では見えないように額に掲げ、会話をしながらNGワードを相手に言わせる、というものです。この日参加した1年生は4～6名ずつ8つのグループに分かれ、ゲームに挑戦しました。相手にNGワードを言わせようと積極的に会話する学生



レクリエーションの様子

や、うっかりNGワードを言って脱落しないよう慎重にやりとりを進める学生など、それぞれが工夫しながら楽しんでいました。はじめは少しぎこちない様子もみられましたが、ゲームが進むにつれて会場は大いに盛り上がりました。メンバーチェンジをしながら4ゲーム行い、NGワードを言わなかった回数に応じて、賞品としてお菓子が贈呈されました(全ゲーム脱落した人も、お菓子はプレゼントされました)。NGワードの中には、学科の先生や授業の名前も含まれていたため、大学生生活の理解にもつながったのではないのでしょうか。

人間文化学科では、このような交流の機会を通して、学生同士が互いを知り、安心して大学生活をスタートできる環境づくりを大切にしています。今回のレクリエーションも、新入生にとって新たな友人との出会いや交流を深める良い機会となりました。

教育実習生による模擬授業 (5/11, 18)

人間文化学科では、教員を目指す学生を対象に、教育実習に向けた模擬授業を毎年実施しています。今年度は、5月11日(月)、18日(月)に、中学国語科、中学社会科、高等学校地理歴史科で教育実習を予定している4年生計5名が参加しました。参加した学生は教科指導担当教員の指導のもとで学習指導案や教材を作成し、教育実習本番を意識して準備を進め、当日は学科の教員や生徒役の学生たちが見守るなかで授業を行いました。授業後には授業内容や教材、板書や話し方について教員から講評があり、学生はそれぞれ熱心に耳を傾けていました。実践的な経験を積むことで、自らの課題や改善点を見つけ、教育実習への意欲をさらに高める機会となりました。



模擬授業の様子

人間文化学科では、中学校国語科・社会科、高等学校国語科・地理歴史科の教員免許取得を目指すことができます。令和3(2021)年度以降、人間文化学科の卒業生16名が教職について活躍しています。今後も、模擬授業など、学生が教職資格を取得するためのサポートを続けてまいります。

新任教員をご紹介します！

人間文化学部 心理学科

犯罪から離脱するために必要な支援とは（安西 敦 教授）

4月に心理学科に着任した安西敦です。専門分野は司法臨床心理学で、非行少年や成人の犯罪者と呼ばれる人たちに対する支援について、臨床実践やそれにまつわる技法などの研究をしています。福山大学に来る前は、弁護士・臨床心理士・公認心理師として、少年審判で非行少年の付添人をしたり、裁判員裁判で弁護人として裁判員を説得したり、性暴力を防ぐためのカウンセリングをしたりしていました。

弁護人の体験としてもそうでしたし、大学に来て学生のみなさんの意見を聞いていても思うのですが、犯罪をした人たちへの社会の目は厳しいものです。でも、生まれながらに犯罪者だった人はいません。育っていく過程で、その子どもにはどうしようもない様々な環境の負因が人を犯罪者に近づけていきます。子どもの頃の逆境体験(虐待等)の悪影響も少なくありません。犯罪者と呼ばれる人たちは社会から憎まれますが、実は社会が救えなかった被虐待児が生き延びた末の姿だったということもよくあるのです。そうして犯罪者と呼ばれるようになった人たちは、ずっと犯罪者なわけでもありません。適切な支援があれば犯罪から離脱できるのです。その人たちにどのような心理的支援が必要なのか、問題のある家庭にはどのように介入すればいいか、支援を効果的にするために司法制度はどう動くべきなのか。課題はたくさんありますが、一緒に考えてみませんか。



安西 敦 教授

研究と実践をつなぎ、こころを支える（波光 涼風 講師）

4月より、心理学科に着任いたしました波光涼風と言います。専門は臨床心理学で、人のこころの働きやメンタルヘルスに関して理解し、支援していく学問です。臨床心理学には「科学者－実践家モデル」という考え方があり、研究で得られた知見を実際の支援に生かし、実践からの学びや課題を研究によって検討するという、研究と実践を相互に結び付ける往還的な姿勢を大切にします。私自身もこれまで、このモデルを軸に活動してきました。

これまでの研究や臨床実践では、中高生を対象としたメンタルヘルス予防プログラムや看護師や看護学生のバーンアウト予防プログラム、親子の関わりを支えるペアレントトレーニング、注射恐怖など多様なテーマに取り組んできました。これらの取り組みでは、プログラムを開発して実際に介入を行い、その効果を検証したり、実験を通してメカニズムを調べたり、調査研究によって実態や課題を明らかにしたりと、様々な方法を用いて支援の在り方を探求してきました。こうした取り組みを通して、どこにいても、支援を必要とする人に有効なサポートが届けられる社会を作ることを目指しています。皆さんも、ぜひ一緒に研究や実践に取り組んでみませんか？



波光 涼風 講師

新歓展示会を開催しました

人間文化学部 メディア・映像学科

学生作品の展示

入学式からしばらく経ち、新1年生が少しずつ大学生活に慣れてきたころ、メディア・映像学科では、19号館1階ロビーにて「新入生歓迎展示会」を開催しました。期間は4月22日から24日までの3日間です。内容は、在校生(3・4年生)によるイラストレーションや映像作品の展示、教員紹介パネルの掲示、そして交流イベントの実施でした。新入生に向けて、「メディア・映像学科の雰囲気」や「先輩たちや制作した作品」を、実際の作品や交流を通じて感じてもらうことを目的として企画されました。

展示会の準備は、学科教員と学生有志が協力しながら進められました。企画立案から始まり、展示機材の準備、告知用ポスターの制作、会場設営、当日の運営に至るまで、皆で力を合わせて作り上げました。普段は通路でしかない空間が、期間中は作品展示の場になりました。



学生イラストレーション展示

新歓イベント

展示会2日目の4月23日は、新歓イベント(16:30~18:00)も開催されました。当日は午後いっぱいを使って、有志の教員と学生で会場づくりを行いました。ロビーには、映像投影用のスクリーンが設置され、ミラーボールや簡易の音響システムも組みられ、普段とは異なる特別な空間になりました。

イベントの司会進行やスタッフ運営は、3年生が中心になって担当しました。司会学生による軽妙なトークを交えながら、和やかな雰囲気で進んでいきました。最初のプログラムは、新入生全員の自己紹介です。出身地や趣味、好きな作品などを司会の質問で共有しながら、少しずつ互いを知る時間となりました。続いて行われたのは、「教員の学生時代を振り返るコーナー」です。教員が大学生だった頃の写真を映写しながら、司会学生による質問に答える形式で進行了。 「学生時代は何をしていたのか」「今の専門につながったきっかけは何だったのか」といった話題が語られ、現在の教員たちにも学生時代があったことが身近に感じられる時間となりました。昔と今の変化に驚く声上がる場面もあり、笑いの絶えないひとときでした。さらに、学生によるDJも行われ、会場には音楽が流れ、スナックやドリンクも用意されました。新入生と在校生、教員が自然に会話を交わしながら交流することができ、終始和やかで楽しい時間となりました。



イベント風景と教員の研究活動資料

今回の新歓展示会とイベントは、メディア・映像学科として初めての試みでした。新入生にとっては、学科の雰囲気や学びを知る機会となり、在校生にとっても後輩との交流を通して学科への所属意識を深める場になったと思います。こうした交流の機会が今後も継続され、毎年の恒例行事として少しずつ定着していけば嬉しいです。

電気電子工学を基礎に
次世代の社会をつくる！

工学部 電気電子工学科

電気電子工学科での学び・支部学会から国際学会へ

電気電子工学科では、1年生、2年生の段階から研究活動や学会発表に挑戦する学生が多く、大学院進学や技術者としての成長につながっています。2025年11月に開催された第34回計測自動制御学会中国支部学術講演会では、2年生の龍和希さん(岡山龍谷高等学校出身)が「多センサ統合による環境センシングドローンの試作と性能評価」と題して研究発表を行いました。龍さんは授業で学んだプログラミングや電子工作の技術を活用し、仲間とともに環境計測用ドローンの開発に取り組みしました。中国地方の大学・高専から多くの研究者が集まる中での発表は、学生にとって将来の研究につながる貴重な経験となりました。



龍さんの学会発表の様子

また、2026年3月に大学院工学研究科電子・電気工学専攻を修了した鳥谷部峻史さん(広島県立福山明王台高等学校出身)は、長崎市で開催された国際会議「IPEC2026」において研究成果を発表しました。大学院で取り組んだパワー半導体制御回路に関する研究を英語で発表し、国内外の研究者と活発な議論を行いました。現在は富士電機株式会社で技術者として活躍しています。電気電子工学科では、1年生からものづくりや研究に挑戦し、学会発表、大学院進学、そして企業での活躍へとつながる学びの環境を整えています。学生一人ひとりの挑戦を支援し、社会で活躍できる技術者の育成に取り組んでいますのでご期待ください。



鳥谷部さんの国際学会参加の様子

地域イベントで学生が活躍 学修の成果をものづくりで発信

電気電子工学科では、授業や実習、研究で培った知識や技術を地域社会へ発信する活動にも力を入れています。2025年11月に開催された「びんごクリエイターズラボ」では、3年生が中心となって工作教室を企画し、マイコンを活用した電子工作・LEDゲーム機を製作する体験コーナーを運営しました。学生たちは回路設計や基板製作、3Dプリンタによるケース製作まで担当し、来場した子どもたちにもものづくりの楽しさを伝えました。また、「じばさんフェア2025」では、水中ドローンや環境センシング技術、生成AIを活用した研究などを展示し、多くの来場者から質問や意見をいただきました。さらに、「びんごキッズラボ&木育イベント」では、レゴロボットを用いたプログラミング体験教室を実施し、学生が講師役として活躍しました。



びんごキッズラボの様子

こうした地域イベントへの参加を通じて、学生たちは技術だけでなく、説明力やコミュニケーション能力も磨いています。学内で学んだ知識を社会へ発信し、人と関わりながら成長できることも電気電子工学科の大きな特徴です。

建築家に学ぶ

工学部 建築学科

岸下真理准教授 着任記念講演会「時間の中の建築」を開催しました

本年度福山大学建築学科に着任した岸下准教授の講演会を、6月19日に開催しました。学生や地域の方等多くの方にご来場いただきました。

「時間の中の建築」と題して行われた講演では、これまでの代表作品の紹介があり、その設計プロセスや設計活動によって培われた思想について説明いただきました。幼い頃に祖父母と休暇を過ごした思い出の場所に人が集まれる空間を設計し、お父様とご子息によって長寿の桜として知られる江戸彼岸桜が植えられ、世代を超えて受け継がれていく様子を写真でご紹介いただきました。また、本講演会のフライヤーにも掲載されている日本圧着端子製造本社ビルでは、外装材を交換しながら建築を維持し、取り外された部材は大阪技術センターのエクステリアとして再活用される計画となっており、「時間の中の建築」を様々な形や方法で実現されています。講演会後には会場から質問も寄せられ、活気ある会となりました。

会場となった学びの館ローズコムでは、Atelier KISHISHITA展を同時開催しており、代表的なプロジェクトに関する図面、模型、写真等を展示し、岸下准教授の空間表現を紹介しました。



100 人程の聴講者で大盛況となりました

建築家による講演会・ワークショップ「トイタテカタ」を開催しました

第19回福山大学建築学科卒業設計展2026の特別企画として、建築家の石原愛美氏をお迎えして「トイタテカタ」を開催しました。石原氏はプフ設計を主宰し、尾道で活躍している建築家です。対談では本学科卒業生の河田陽依菜氏も登壇しました。

前半は設計ワークショップを実施し、後半は講演会と対談を行いました。設計ワークショップには、建築学科の1年生から4年生までが参加しました。当日は、15世紀の画家アントネロ・ダ・メッシーナによる絵画「書斎の聖とヒエロニムス」を観察し、要素を抽出するところから始まりました。その後、尾道駅から尾道市役所のエリアから好きな場所を選び、本を読むための空間を一人ずつ提案しました。個性豊かな提案が集まり、石原氏から講評をいただきました。

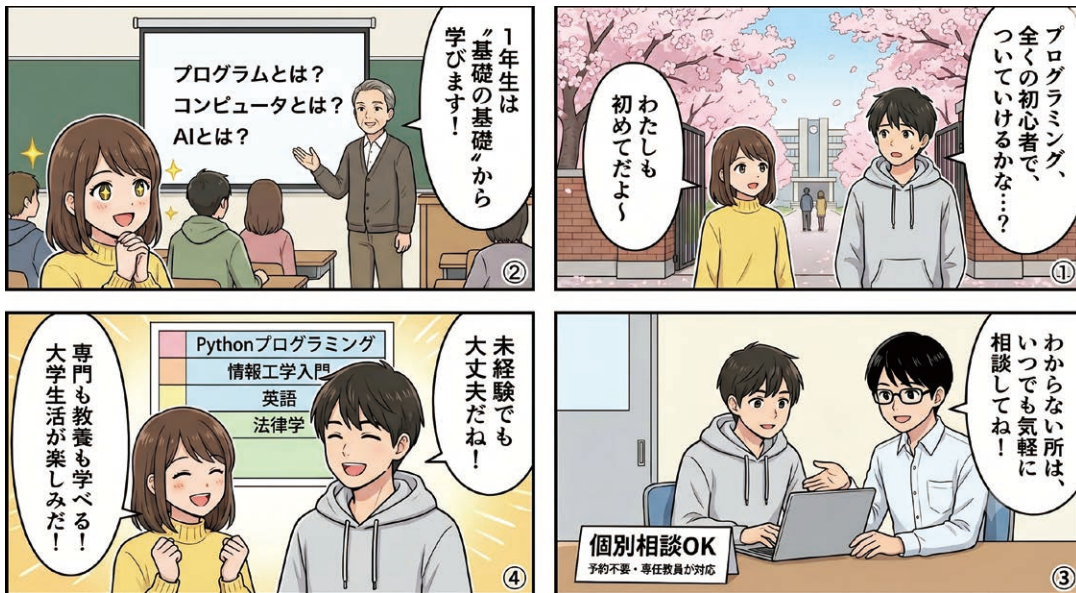
後半は石原氏の講演会があり、これまでの作品や活動をお話しいただきました。学生にとって特に印象的であったのは、卒業設計や修士設計の紹介でした。大学での設計課題や卒業設計、さらには将来建築に携わるうえで貴重な経験となりました。対談では河田氏が加わり、コーディネーターの学生からの問いかけをもとに、お二人から幅広いお話を聞くことができました。



ワークショップでの講評

工学部 情報工学科

デジタル社会で活躍するITエンジニアを目指す



オープンキャンパスで模擬講義や施設・研究成果を体験しよう

情報工学科では、コンピュータ、プログラミング、セキュリティの基礎からAI、VR、IoT、3次元ゲーム制作などの最先端技術まで、実践的カリキュラムで学べます。充実した設備で専門知識とスキルを習得し、演習や卒業研究を通じて総合力も養成。資格取得支援も充実し、デジタル社会で活躍するITエンジニアを育成します。

自分でもっといろいろなことに挑戦したい・プログラミングを勉強したい、そんな学生を応援するためにプログラミング道場やゲームプログラミング演習室といった環境を用意しています。そのような環境で生まれた研究やゲームに触れてみてください。

● 運転シミュレーション

車の運転はハンドルやアクセルなどが実物のように付いており、本格的な運転体験ができます。



ゲームプログラミング演習室での運転シミュレーション

● 非接触操作 や 視線分析

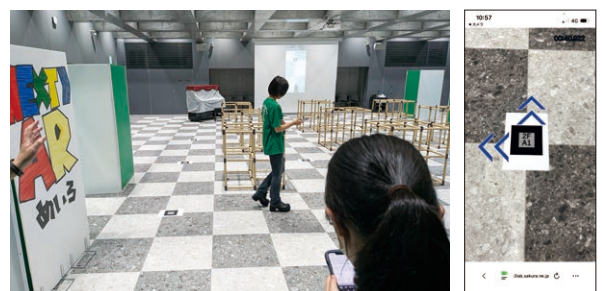
手をかざすとポインターが動き、授業や講義での利用も想定されています。またどこがよく見られているかを分析してデザインに活かす視線分析も紹介。



研究・実験エリアでの非接触操作や視線分析

● 聚志館 地下1階でのAR迷路

ARマーカーをスマホで読み込むと矢印が出現し、矢印どおり進むけど矢印がない方向には進めない。



聚志館 地下1階でのAR迷路

工学部 機械システム工学科

画像を使って測る (西尾 茂 教授)

目分量と画像計測

「目分量」とは、元来は計器を使わずに測る行為を指し、優れた職人の技量の一部として語られることがありました。しかし、近年は素人が見た目で判断する「いい加減なこと」を揶揄する表現に用いられることが多くなりました。「目で見ただけ」そのままの姿を記録する写真技術が発明されたのは約200年前でしたが、画像を電気信号に変え、それをデジタル画像として記録できるようになったのは、ほんの50年前の話です。この画像の「デジタル化」は、計測の世界に「革命」を起こし、「目分量」である画像を使った計測；画像計測は、先端技術分野の一つとなりました。

目にも止まらぬ速さ；高速度撮影技術

映画やテレビ映像の画面の切り替え速度は、 $1/20 \sim 1/30$ 秒です。これは、人の目の「残像」が $1/20$ 秒以上であることに基いており、これより早い速度で変化する動きは、人間の目では「見えなく」なります。静止画の場合は、露光時間短縮；シャッタースピードを上げることにより、対象物を「止める」ことができ、「一瞬の出来事」を捉えることができます。一方、対象物の「動き」を分析するためには、最低2枚以上、できれば10枚以上の連続画像が必要となります。マルチ・フレーミングと呼ばれ、現代の技術では1秒間に1億枚の撮影が可能となっています。この速度で撮影すると、画像間で光は3mしか進みません。

画像を使った計測例

動画を使って流場の速度分布を計測する技術をPIV；粒子画像流速測定法と呼びます。私は、長年、この技術の開発に携わり、船舶海洋工学の分野への応用を試みてきました。図1は、魚類型推進の分析を目的とし、翼型上に複数の関節を持つモデルを動かし、周囲の流れ場を計測した例です。力も同時に計測することで、速度場と推進力の関係を調査しました。一方、図2は高速度撮影の応用例で、直径2.0 mmのノズルから秒速15 mで噴出される水が細かい液滴になる様子の分析した例です。高性能カメラを用いて12 kHz；1秒間に1万2千枚の画像取得を行う実験を実施しました。ディーゼルエンジンの燃料噴霧の性能評価に用いることを目的としており、液滴の大きさを画像から評価する方法を開発しました。

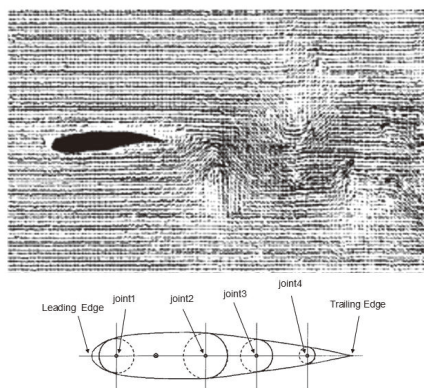


図1 多関節翼周りの流れ場の計測；
後流に渦対を作りながら進む [1]

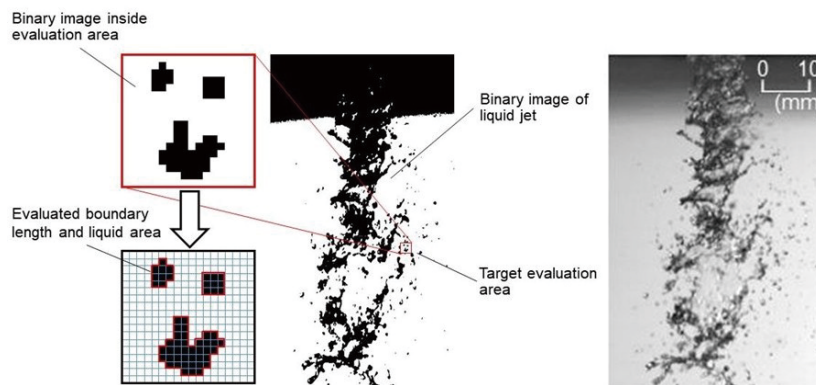


図2 燃料噴霧の微粒化過程の分析；
液滴画像の周囲の長さとの面積の比で、液滴の大きさを測る [2]

参考文献：

- [1] 日本造船学会論文集，第191号，pp.17-24，2002.
- [2] Atomization and Sprays, Vol. 30, Issue 4, pp.287-300, 2020.
- [3] 新任教員の紹介—西尾教授—，福山大学学長ブログ，2025-07-07；QRコード参照



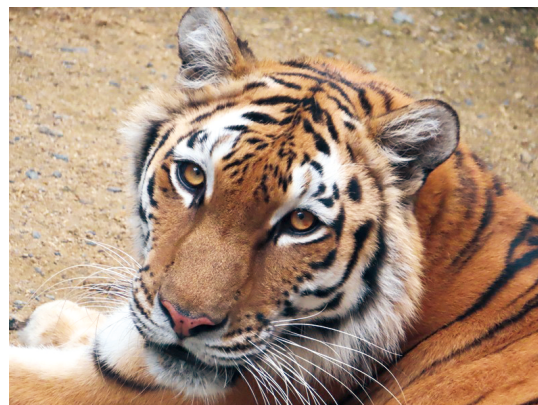
生命工学部 生物科学科

動物の行動を学ぶ動物園実習

生物科学科ではミクロからマクロまで多様な生物の理解を目指しています。その一環として、「タカオ福山動物園」での動物園実習を導入しました。大型哺乳類の生態を専門とする石塚真太郎講師が担当しています。動物を深く理解するためには、実際に観察し、その生き様を体感することが重要です。実習では、学生一人ひとりが対象動物を選び、科学的な手法による行動観察と記録に挑戦しました。多くの学生にとって本格的な行動観察は初めてでしたが、互いに相談しながら取り組み、観察技術を身につけることができたようです。動物種間の行動の共通点や相違点を考察することで、動物行動への理解も深まったことでしょう。さらに、動物園が環境教育、調査研究、希少種保全などの重要な役割を担っていることや、その運営上の課題についても学びました。今回の実習は、動物への理解を深めるだけでなく、動物園の社会的意義を実践的に考える機会にもなりました。動物園実習の導入によって、本学科の学びの幅はさらに広がっています。



行動観察する3年生



福山動物園のアムールトラ

世界を変えた動物園との共同研究

20年以上前のことです。当時、レッサーパンダの進化的な位置づけはわかっておりませんでした。このかわいらしい動物園の人気者の正体を暴くために、福山大学の4年生がその解決に乗り出しました。その結果、レッサーパンダはイタチ科とアライグマ科に近い、独自の系統をもつということが世界で初めて明らかになったのです。この研究成果は「広島市安佐動物公園」との共同研究が結実したものです。この研究はその後発展を続け、2025年には佐藤淳教授が「小さなパンダーレッサーパンダの謎ー」を東京大学出版会から出版しました。その本の中では、現在も広島市安佐動物公園で来園者を魅了する5個体のレッサーパンダが活躍しています。竹を食べて木の上で休む姿を見ているだけでも魅力的ですが、「なぜ手を使って竹の茎を持てるのだろう」、「なぜ背部が赤茶けているのに腹部や四肢が黒いのだろう」といった疑問も次々と湧いてきます。こうした素朴な疑問から新たな研究が生まれることもあります。動物園と大学の連携は、動物たちの多様性や進化の不思議を学ぶための貴重な機会となっています。



安佐動物公園のレッサーパンダ

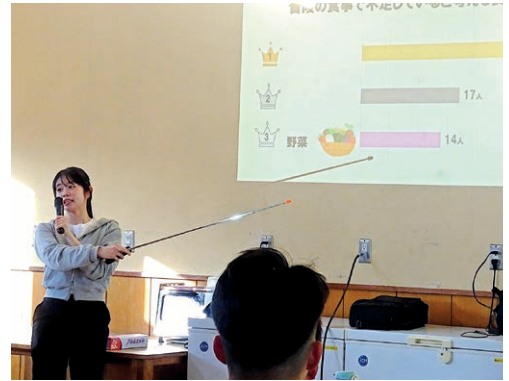
生命工学部 健康栄養科学科

スポーツ栄養セミナーを実施しました！

健康栄養科学科「食育・スポーツ栄養コース」では、スポーツ選手を対象に栄養に関する実践活動に取り組んでいます。今回は、尾道高等学校ラグビー部の選手を対象に、4年生の福田侑央さん(広島県立府中高等学校出身)がスポーツ栄養セミナーを担当しました。ラグビーは、タックルやスクラムなどのコンタクトプレーが多く、トレーニングと食事による身体づくりが重要です。そこで、事前アンケートで不足傾向が見られた「乳製品」をテーマにプログラムを企画しました。

栄養セミナーでは、乳製品の種類や機能、適切な摂取量やタイミング、簡単レシピをクイズ形式で楽しく学べるように工夫しました。参加者からは「練習後に乳製品を取り入れたい」、「クイズ形式で面白くて内容が理解しやすかった」といった感想が寄せられました。福田さんは「準備は大変でしたが、選手の皆さんが熱心に話を聞いてくれて嬉しかったです。授業での学びを実践でき、良い経験になりましたし、もっと勉強しなければという気持ちも芽生えました」と振り返りました。

皆さんも健康栄養科学科で、このような実践活動を体験してみませんか。



スポーツ栄養セミナーの様子

公衆栄養学で学ぶ食と健康

この春から公衆栄養学研究室に着任しました岸知子です。健康栄養科学科では、3年次に学外で公衆栄養学臨地実習を行います。その準備として、学内の授業で食事調査票を用いて自身の栄養素・食品群の摂取量を調査し、食事調査法について学びます。また、若い女性・中年男性・高齢者を想定して、模擬栄養教室を実施しています。模擬栄養教室では、「楽しく分かりやすく伝える」を目標に、グループで意見やアイデアを出し合い、リーフレットや媒体を作成して発表を行いました。

4年次には卒業研究に取り組みます。今年度は「栄養摂取状況と食生活リテラシーおよび体組成との関連の検討」をテーマに研究を進めています。食生活リテラシーとは、栄養や食の情報を適切に収集・活用する能力のことです。本研究では、食事における食品・栄養素の摂取量から対象者を分類し、各群の食生活リテラシーや筋肉量・体脂肪量などの体組成を比較します。現在、食事調査票や体組成計を用いてデータ収集を行っています。

4年間の学びを通じて、学生が夢と自信をもって社会に羽ばたくことを願うとともに、その支援に努めていきたいと考えています。



公衆栄養学実習の様子

健康で安全な魚を食卓に

生命工学部 海洋生物科学科

海洋生物科学科に着任しました

はじめまして。4月に海洋生物科学科に着任した大谷真紀です。

子供のころ、自宅で飼っていた金魚が病気になったことをきっかけに、大学では魚の免疫機構について学び、現在に至っています。専門は「魚類免疫学」です。これまで養殖魚を中心に、魚類の感染症や免疫応答に関する研究を日本だけでなく海外でも行ってきました。

「養殖」と聞けば、マダイやブリなど食卓でおなじみの魚を思い浮かべるかもしれませんが、広島を代表するカキなどの二枚貝、最近ではバナメイエビといった甲殻類まで、実は多種多様な魚介類が日本でも育てられています。一方で、これらが生簀(いけす)の中で微生物(ウイルス、細菌、寄生虫など)に感染し、大きな被害が出ることも少なくありません。ニュースなどで目にしたことがある方もいるのではないのでしょうか。

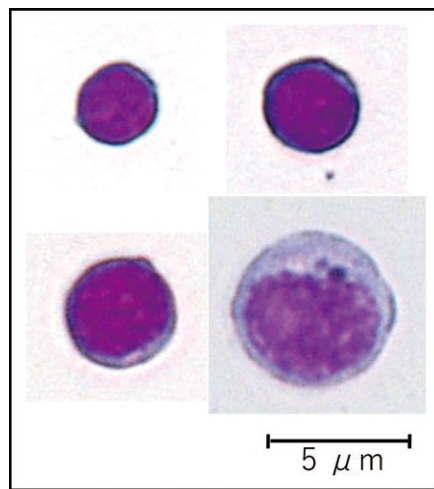
養殖は区切られた生簀や水槽で行われるため、学校のクラス内でインフルエンザが流行するように、あっという間に病気が広がってしまいます。そのため「事前の予防」が欠かせません。その切り札となるのが「水産用ワクチン」です。ワクチンは病気の発生を防ぎ、症状を抑える効果があるだけでなく、副作用の心配もほとんどありません。微生物が病気を引き起こす仕組みと、それに対抗する魚の免疫細胞の役割を解明することで、より効果の高いワクチン開発を目指しています。

また、温暖化や養殖環境の変化によって現れる「新しい病気」の原因究明も大切な仕事です。いち早く原因菌を突き止め、治療法や予防法を提案することで、被害の拡大を食い止めます。

瀬戸内の豊かな水産資源を守り、健康で安全な美味しい魚介類を食卓へ届けるために。生き物が好き、海を守りたい——そんな熱意を持った皆さんと、ここ福山大学で一緒に研究できる日を楽しみにしています！



大谷 真紀 准教授



魚類 B 細胞の形態



病原性細菌のコロニー

薬学部 薬学科

新入生歓迎ソフトボール大会

福山大学薬学部では毎年恒例の新入生歓迎ソフトボール大会が大学内野球グラウンドで開催されました。当日は晴天に恵まれ、爽やかな初夏の陽気の中、入学したばかりの1年生と教員、上級生がそれぞれチームを組み、和やかな雰囲気で行われました。

打球が外野へ抜けるたびに歓声が上がり、ベンチからは仲間を応援する声が絶えず、学年を越えた交流が自然と生まれていました。プレー中には思わず笑いがこぼれる場面も多く、初対面同士でもすぐに打ち解けられる貴重な機会となりました。

また、今大会では成績上位チームの表彰も行われ、優勝、準優勝、3位のチームにはトロフィーが授与されました。試合後には思い出に記念撮影を行い、1年生にとっては大学生活の第一歩を彩る思い出深いイベントとなりました。薬学部らしい温かい雰囲気の中、今年も新たな仲間とのつながりが育まれた大会となりました。



ソフトボール大会の様子

新任教員紹介

今年度4月より薬学部に着任した小田康祐です。よろしくお願いします。福山が故郷です。生まれ育った町に帰ってきて、毎日をととても懐かしい気持ちで過ごしています。担当する講義は、機能形態学と薬物治療学です。これまで他大学では薬理学や物理化学、微生物学などの講義を担当してきました。近年の薬剤師国家試験では、様々な科目の分野横断的な思考を問う問題が多数出題されます。自分の経験を今の薬剤師教育に活かすことができると思うと、戸惑いつつも真面目に取り組んできたことはとても貴重な財産になったのだと思います。将来のことは誰にも分かりません。何事も一生懸命に取り組んでいくことが、自分の将来を拓くきっかけになるのだと思います。

研究では、ウイルス学が専門です。ヒトに病原性を示すウイルスを多く含むパラミクソウイルスと呼ばれるグループについて、基礎研究しています。私は蛋白質の立体構造を調べることが得意です。ウイルス蛋白質と宿主蛋白質の複合体構造を明らかにし、両者間の相互作用を調べることで、ウイルス蛋白質の未知の性質を紐解いていきます。最近得られた知見では、ウイルス蛋白質が宿主蛋白質に強く結合すると、最初期生体防御として重要な自然免疫の発動を抑えるものの、弱く結合した場合は、獲得免疫の誘導を抑えるという可能性を見出しました。とても興味深い現象であり、この研究を通じてこれまでにないワクチンを開発できるかもしれません。

私は研究を進める上で、個性を大事にしています。ひとつのテーマに対しアプローチの方法は、ひとつだけではありません。自分ならこのテーマをどこまで面白くできるだろうと考えると、楽しく研究することができ、最終的には自分らしい論文が出来上がります。福山大学では、ひとつのことを追求することの楽しさを、研究を通して伝えていくことができればと思います。



小田 康祐 准教授

令和9(2027)年度 入試日程

集まれ、未来創造人



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

☆公募推薦型選抜A日程

- ◇試験日 令和8(2026)年11月17日(火)・18日(水) ※試験日自由選択制
- ◇出願期間 令和8(2026)年11月2日(月)～10日(火) 消印有効
- ◇試験地 11/17, 18 本学・福山(社会連携推進センター)・広島・福岡・岡山
11/17 鳥取・徳島・高知・大阪・那覇 11/18 松江・高松・松山・神戸・山口
- ◇合格発表 令和8(2026)年12月1日(火) ◇入学手続完了日 令和8(2026)年12月9日(水)

☆公募推薦型選抜B日程

- ◇試験日 令和8(2026)年12月12日(土)
- ◇出願期間 令和8(2026)年11月24日(火)～12月8日(火) 消印有効
- ◇試験地 本学・福山(社会連携推進センター)・広島・松江・松山・岡山
- ◇合格発表 令和8(2026)年12月16日(水) ◇入学手続完了日 令和8(2026)年12月25日(金)

☆一般選抜前期A日程

- ◇試験日 令和9(2027)年1月31日(日)・2月1日(月)・2日(火)・3日(水) ※試験日自由選択制
- ◇出願期間 令和9(2027)年1月5日(火)～1月25日(月) 消印有効
- ◇試験地 1/31～2/3 本学・福山(社会連携推進センター)・広島・山口・福岡・岡山
1/31 鳥取・浜田・宮崎 2/1 米子・大分 2/2 静岡・京都・熊本
2/3 名古屋・神戸・佐賀 1/31, 2/1 東京・大阪・松山・高知・鹿児島・那覇
2/2, 2/3 松江・高松・今治・小倉
- ◇合格発表 令和9(2027)年2月9日(火) ◇入学手続完了日 令和9(2027)年2月19日(金)

☆一般選抜前期B日程

- ◇試験日 令和9(2027)年2月20日(土)
- ◇出願期間 令和9(2027)年2月4日(木)～2月15日(月) 消印有効
- ◇試験地 本学・福山(社会連携推進センター)・広島・岡山
- ◇合格発表 令和9(2027)年2月25日(木) ◇入学手続完了日 令和9(2027)年3月9日(火)

☆一般選抜後期日程

- ◇試験日 令和9(2027)年3月7日(日)
- ◇出願期間 令和9(2027)年2月22日(月)～3月2日(火) 消印有効
- ◇試験地 本学・福山(社会連携推進センター)・広島・福岡・岡山・大阪
- ◇合格発表 令和9(2027)年3月10日(水) ◇入学手続完了日 令和9(2027)年3月25日(木)

☆大学入学共通テスト利用選抜 前期 ※個別学力試験は課しません

- ◇出願期間 令和9(2027)年1月5日(火)～1月25日(月) 消印有効
- ◇合格発表 令和9(2027)年2月9日(火) ◇入学手続完了日 令和9(2027)年2月19日(金)

☆大学入学共通テスト利用選抜 後期 ※個別学力試験は課しません

- ◇出願期間 令和9(2027)年2月22日(月)～3月2日(火) 消印有効
- ◇合格発表 令和9(2027)年3月10日(水) ◇入学手続完了日 令和9(2027)年3月25日(木)

◇ オープンキャンパス2026日程 ◇

2026年8月23日(日)・9月5日(土)・2027年3月13日(土)

*当日のプログラムや実施時間などの詳細については決定次第、大学ホームページにてご案内いたします。

入試広報室

〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
Tel 084-936-2111(代)・084-936-0521(直)
Fax 084-936-2160
E-mail kouhou@fukuyama-u.ac.jp
<https://www.fukuyama-u.ac.jp>

問い合わせ先

福山大学の情報を
LINEからお届け!

LINE@



発行：福山大学 編集：入学試験委員会